

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

教養を持たないと大局観が身に付かない 藤原 正彦 (御茶ノ水女子大学名誉教授)

1. これからは損得や役立つ、役立たないという発想から離れた次元で物事を決めなければならない。これがコロナ後の世界でいちばん鮮明となる変化なのだ。そこで、教養が重要となってくるのである。身近にあるささやかな幸せ、美しい自然、文化、芸術でもいい。はっきり言って何の腹の足しにもならないようなことが、再評価される時代だ。役に立たないように見えるが、これらを手に入れると、グローバルズムに象徴される、コロナ以前の世界がどうしようもないものだったことがわかる。
2. 教養がないと、情報の選択ができなくなる。今は小中学生から大人までスマートフォンでインターネットを見ている。そこには無限の情報があるが、無限の情報とは、数学的にはゼロと同じである。無限＝ゼロ。選択する方法を知らない限り、それはゼロでしかない。肝心なのは無限の情報の中から、本質的な情報を選ぶことだ。一般人にとっては情報を得ることよりも情報を選択する力が重要になる。その情報を選択する力こそまさに教養なのである。
3. スマホで選択できない情報を何度見ても何も意味もない。新聞や雑誌は情報を選択する役割を担っていて、本質的な情報を提示してくれる。こうしたメディアから得た知識を読書によって、教養まで高めていくという作業が大切だ。
(参考:「週刊東洋経済」2020年8月15日号)

経営者のための理念・哲学

実践こそが問われている

数士 文夫 (JFEホールディングス名誉顧問)

1. 学び、知ることは大切です。しかし、学んだことを実践することのほうが遥かに重要です。学問は、実践に至って初めて評価されます。実践されなければ確かなことは分からず、何も始まらないからです。このことを荀子は次のように戒めています。
2. 「聞かざるはこれを聞くにしかず これを聞くことはこれを見るにしかず これを見るはこれを知るにしかず これを知るはこれを行うにしかず 学はこれを行うに至りて止む」(何ごとに限らず聞かないより聞くほうがいい。ただ聞くより見るほうがいい。ただ見るより分かるほうがいい。ただ分かるより実践するほうがいい。学問は実践に行き着かなければ意味がない)

(参考:「致知」:2020年10月号)

経営者のための危機管理

百貨店の凋落を招いた原因

1. 百貨店は客層が高齢化し続け、特にこの10年ほどは高齢者の行く店というイメージが若い世代に定着してしまっている。かつては屋上遊園地や魅力的なレストランなどがあり、庶民に身近な存在であり、百貨店に行って買い物をするコト自体がワクワクするレジャー体験だった。しかし徐々に他のエンタメ性の高いレジャーが競合として現れた。にもかかわらず、百貨店は大きく変化せずビジネスを続け、結果的にエンタメ性を高められずレジャーとしての選択肢に入れきれなかった。
(同志社大学・高橋広行教授)
2. かつて百貨店は新しい産業や催事を見つけて来ることに積極的で躊躇なく挑戦できる雰囲気があった。売り上げが低迷するにつれ、硬直的で官僚的な組織になり、無難なことばかりするようになってしまった (関西大学・藤岡里圭教授)

(参考:「日経ビジネス」2020年8月24日号)

古典に学ぶ

東照公の遺訓

(解説) 東照公(徳川家康)に驚くべきは、神道仏教儒教等にたいそう力を入れられたことである。ことに論語中庸をよくお読みなすったことは歴史に明記してあります。神君の遺訓として「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず…云々」。私はかようによく覚えております。この遺訓はまったく論語から出ております。
(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)